



コマンドラインインターフェースの概要

- [管理対象オブジェクト, 1 ページ](#)
- [コマンドモード, 1 ページ](#)
- [オブジェクトコマンド, 3 ページ](#)
- [コマンドの実行, 4 ページ](#)
- [コマンド履歴, 5 ページ](#)
- [保留コマンドのコミット、廃棄、および表示, 5 ページ](#)
- [CLIに関するオンラインヘルプ, 5 ページ](#)
- [CLIセッション制限, 6 ページ](#)

管理対象オブジェクト

Firepower eXtensible Operating System は管理対象オブジェクトモデルを使用します。このモデルでは、管理対象オブジェクトは管理可能な物理エンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティ モジュール、ネットワーク モジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理エンティティです。また、ユーザロールやプラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。

管理対象オブジェクトには関連付けられている設定可能なプロパティが複数存在する場合があります。

コマンドモード

CLI のコマンドモードは階層構造になっており、EXEC モードがこの階層の最高レベルとなります。高いレベルのモードは、低いレベルのモードに分岐します。高いレベルのモードから 1 つ引くレベルのモードに移動するには **create**、**enter**、および **scope** コマンドを使用します。また、モード階層で 1 つ高いレベルに移動するには **exit** コマンドを使用します。



(注) コマンドモードの大半は管理対象オブジェクトに関連付けられているため、あるオブジェクトと関連付けられているモードにアクセスできるようにするには、まず、そのオブジェクトを作成する必要があります。アクセスするモードに対する管理対象オブジェクトを作成するには、**create** および **enter** コマンドを使用します。**scope** コマンドは管理対象オブジェクトを作成するものではありません。すでに管理対象オブジェクトが存在するモードにアクセスするだけです。

各モードには、そのモードで入力できるコマンドのセットが含まれています。各モードで使用できるほとんどのコマンドは、関連付けられた管理対象オブジェクトに関係しています。

各モードの CLI プロンプトには、モード階層における現在のモードまでのフルパスが表示されます。これにより、コマンドモード階層での現在位置がわかりやすくなります。また、階層内を移動する必要がある場合には、非常に便利な機能です。

次の表に、主要なコマンドモード、各モードへのアクセスに使用するコマンド、および各モードに関連付けられている CLI プロンプトを示します。

表 1: 主要なコマンドモードとプロンプト

モード名	アクセスに使用するコマンド	モード プロンプト
EXEC	任意のモードで top コマンド	#
アダプタ	EXEC モードで scope adapter コマンド	/adapter #
配線	EXEC モードで scope cabling コマンド	/cabling #
シャーシ	EXEC モードで scope chassis コマンド	/chassis #
イーサネット サーバ	EXEC モードで scope eth-server コマンド	/eth-server #
イーサネット アップリンク	EXEC モードで scope eth-uplink コマンド	/eth-uplink #
ファブリック インターコネク ト	EXEC モードで scope fabric-interconnect コマンド	/fabric-interconnect #
ファームウェア	EXEC モードで scope firmware コマンド	/firmware #
ホストイーサネットインター フェイス	EXEC モードで scope host-eth-if コマンド	/host-eth-if #

モード名	アクセスに使用するコマンド	モード プロンプト
ライセンスの 25%	EXEC モードで scope license コマンド	/license #
モニタリング	EXEC モードで scope monitoring コマンド	/monitoring #
組織	EXEC モードで scope org コマンド	/org #
セキュリティ	EXEC モードで scope security コマンド	/security #
サーバ	EXEC モードで scope server コマンド	/server #
サービス プロファイル	EXEC モードで scope service-profile コマンド	/service-profile #
SSA	EXEC モードで scope ssa コマンド	/ssa #
system	EXEC モードで scope system コマンド	/system #
仮想 HBA	EXEC モードで scope vhba コマンド	/vhba #
仮想 NIC	EXEC モードで scope vnic コマンド	/vnic #

オブジェクト コマンド

オブジェクト管理用に 4 つの一般的なコマンドがあります。

- *createobject*
- *deleteobject*
- *enterobject*
- *scopeobject*

scope コマンドは、永続的オブジェクトでもユーザ インスタンス化オブジェクトでも、すべての管理対象オブジェクトで使用できます。その他のコマンドを使用して、ユーザ インスタンス化オブ

ジェクトを作成および管理できます。すべての **createobject** コマンドには、それぞれ対応する **deleteobject** コマンドおよび **enterobject** コマンドが存在します。

ユーザ インスタンス化オブジェクトの管理では、次の表に説明するように、これらのコマンドの動作はオブジェクトが存在するかどうかによって異なります。

表 2: オブジェクトが存在しない場合のコマンドの動作

コマンド	動作
createobject	オブジェクトが作成され、該当する場合、そのコンフィギュレーション モードが開始されます。
deleteobject	エラー メッセージが生成されます。
enterobject	オブジェクトが作成され、該当する場合、そのコンフィギュレーション モードが開始されます。
scopeobject	エラー メッセージが生成されます。

表 3: オブジェクトが存在する場合のコマンドの動作

コマンド	動作
createobject	エラー メッセージが生成されます。
deleteobject	オブジェクトが削除されます。
enterobject	該当する場合、オブジェクトのコンフィギュレーション モードが開始されます。
scopeobject	オブジェクトのコンフィギュレーション モードが開始されます。

コマンドの実行

任意のモードで Tab キーを使用すると、コマンドを実行できます。コマンド名の一部を入力して Tab を押すと、コマンド全体が表示されるか、または別のキーワードを選択するか引数値を入力する必要があるところまで表示されます。

コマンド履歴

CLI では、現在のセッションで使用したすべてのコマンドが保存されます。上矢印キーまたは下矢印キーを使用すると、これまでに使用したコマンドを1つずつ表示できます。上矢印キーを押すと履歴内の直前のコマンドが、下矢印キーを押すと履歴内の次のコマンドが表示されます。履歴の最後に到達すると、下矢印キーを押しても次のコマンドが表示されなくなります。

履歴内のすべてのコマンドは、履歴を1つずつ表示し、目的のコマンドを再度呼び出し、Enter キーを押すだけでもう一度実行することができます。このコマンドは手動で入力したように表示されます。また、コマンドを再度呼び出した後、Enter キーを押す前にコマンドを変更することもできます。

保留コマンドのコミット、廃棄、および表示

CLI でコンフィギュレーション コマンドを入力する場合、**commit-buffer** コマンドを入力するまで、そのコマンドは適用されません。コミットされるまで、コンフィギュレーション コマンドは保留状態となり、**discard-buffer** コマンドを入力して廃棄できます。

複数のコマンド モードで保留中の変更を積み重ね、**commit-buffer** コマンド1つでまとめて適用できます。任意のコマンドモードで **show configuration pending** コマンドを入力して、保留中のコマンドを表示できます。



(注) 複数のコマンドをまとめてコミットするのは、アトミック操作ではありません。失敗したコマンドがあっても、成功したコマンドは適用されます。失敗したコマンドはエラーメッセージで報告されます。

コマンドが保留中の場合、コマンドプロンプトの前にアスタリスク (*) が表示されます。アスタリスクは、**commit-buffer** コマンドを入力すると消去されます。

次に、プロンプトがコマンドエントリのプロセス中に変わる例を示します。

```
Firepower# scope system
Firepower /system # scope services
Firepower /system/services # create ntp-server 192.168.200.101
Firepower /system/services* # show configuration pending
  scope services
+   create ntp-server 192.168.200.101
  exit
Firepower /system/services* # commit-buffer
Firepower /system/services #
```

CLI に関するオンラインヘルプ

? 文字を入力すれば、いつでもコマンド構文の現在の状態で使用可能なオプションを表示できます。

プロンプトに何も入力しなかった場合、?と入力すると、そのときのモードで使用できるコマンドがすべて表示されます。コマンドの一部を入力した場合、?と入力すると、コマンド構文のそのときの位置で使用できるキーワードと引数がすべて表示されます。

CLI セッション制限

Firepower eXtensible Operating System は、同時にアクティブにできる CLI セッションの数を合計で 32 セッションに制限します。この値は設定可能です。